

日永地区まちづくり構想

(案)

日永地区まちづくり構想策定委員会

令和4年5月

目 次

I はじめに

- 1. まちづくり構想とは 1
- 2. 日永地区のあらまし 2

II 基本的な考え方

- 1. 将来像（めざすまちの姿） 6
- 2. 基本目標（まちづくりの大きな方向） 7
- 3. 取組の体系 8

III まちづくりの取組方向

- 基本目標1. 「歴史・文化・風景を伝えるまちづくり」 9
- 基本目標2. 「緑の中に憩いとふれあいを生み出すまちづくり」 13
- 基本目標3. 「生活の快適さ、便利さを高めるまちづくり」 18
- 基本目標4. 「災害に強く、安全な暮らしを守るまちづくり」 23
- まちづくり構想図 31

IV まちづくり構想の実現に向けて

- 1. 推進体制 33
- 2. 意識の共有と協働によるまちづくり 33

策定資料

- 策定体制
- 策定経過
- 資源・課題マップ

I はじめに

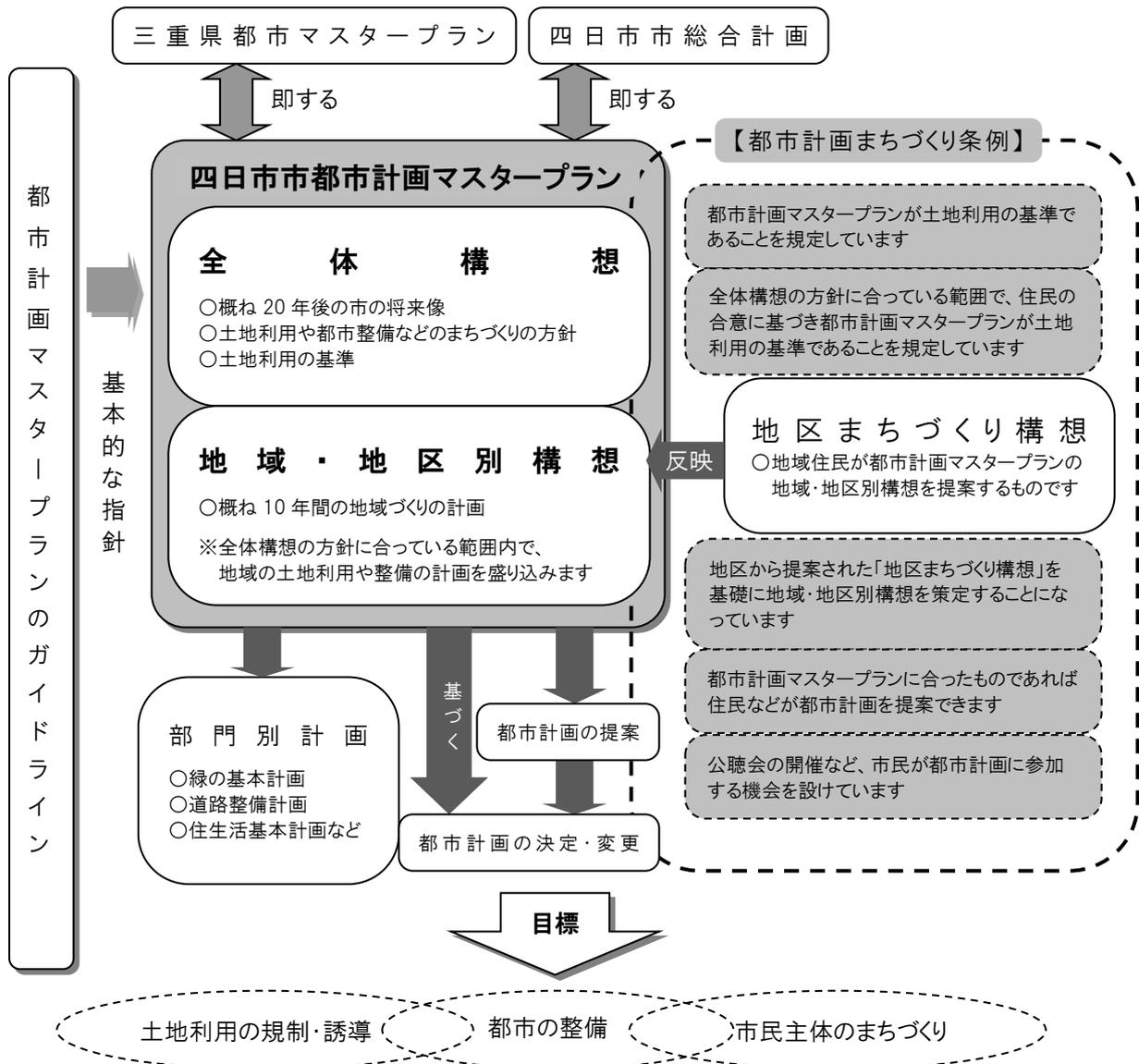
1. まちづくり構想とは

「日永地区まちづくり構想」は、私たち地区住民が主体となって、今後 10 年間の日永地区のまちづくりについて、目標や方向性を定めたものであり、地区住民は、このまちづくり構想をもとに、地区のまちづくりを推進していくことになります。

まちづくり構想を市に提案すると、市では、まちづくり構想をもとに地域の土地利用や整備の計画など、取り組むべき施策などを整理し、概ね 10 年間の地域づくりの計画となる「日永地区都市計画マスタープラン（地域・地区別構想）」を策定します。

この手続きは「四日市市都市計画まちづくり条例」に位置づけられており、市は、「日永地区都市計画マスタープラン」に沿って、地区住民と協働でまちづくりに取り組んでいくことになります。

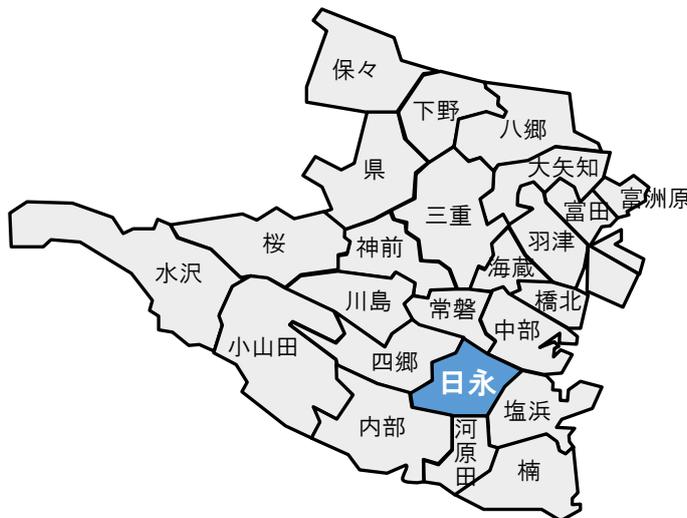
【地区まちづくり構想の位置づけ】



2. 日永地区のあらまし

○日永地区の位置と地勢

日永地区は、四日市市の南部に位置する面積 7.23km² の地区です。当地区の北には中部地区、常磐地区があり、市の中心市街地から連なる市街地を形成しています。また、当地区の東部から東の塩浜地区にかけて工業地域が形成されています。さらに、当地区の西端には南部丘陵があり西の四郷地区とともに公園や住宅地となっており、南には河原田地区、内部地区が接しています。



当地区の大部分は沖積平野であり、地区の北部を鹿化川、天白川が流れています。南北に貫く東海道沿いは街村として発展しましたが、かつてその周囲は水田の広がる農村地域であったことから、地区内を東西に小河川、水路が流れています。近年は急速に宅地化が進み、内水氾濫が問題となっています。地区の西端の南部丘陵には自然が残りますが、これらは養老-桑名-四日市断層帯の一部をなす断層崖が作った地形です。

日永地区の概要

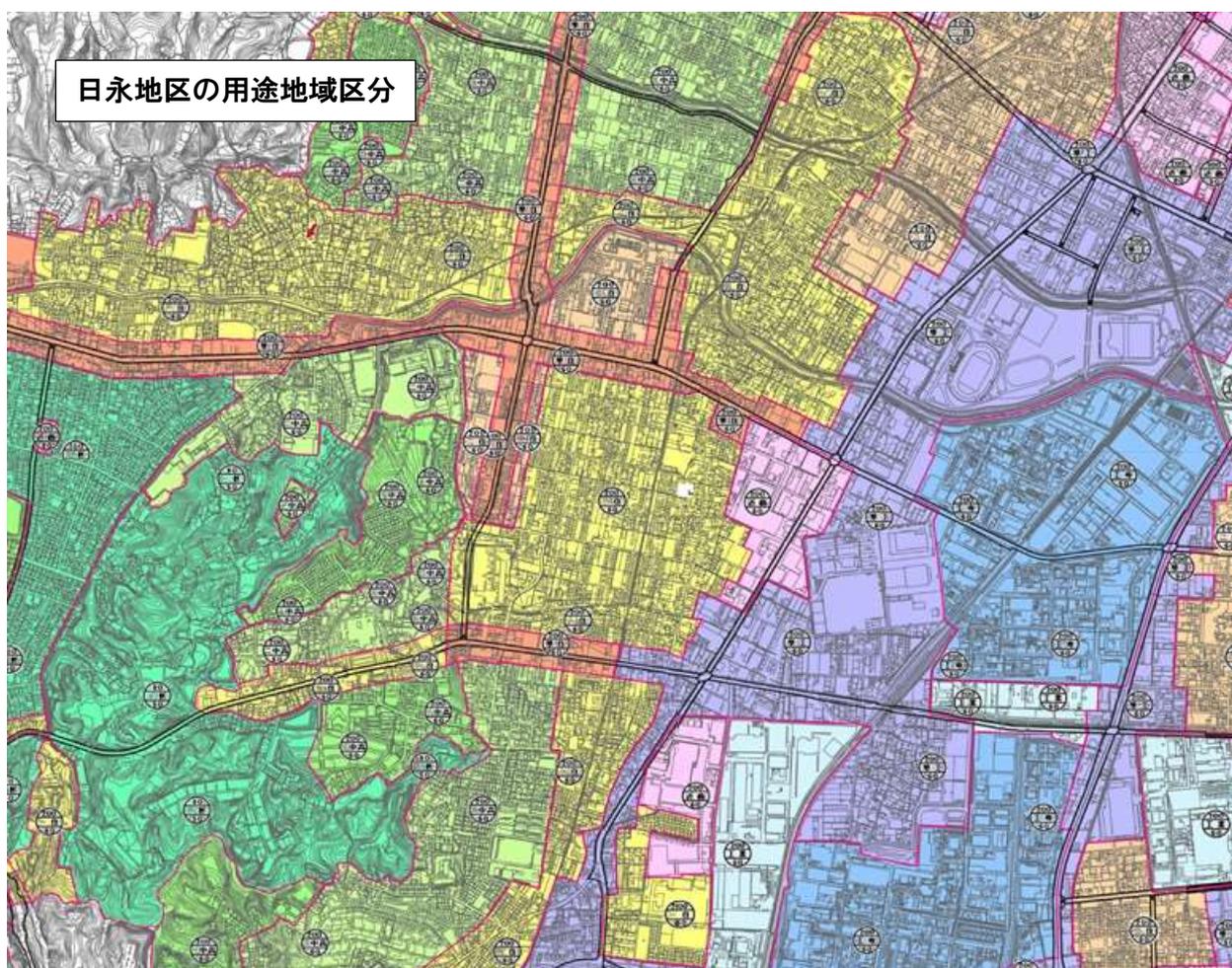


※「笹川通り」（市道子西八王子線）と「泊山通り」（市道日永山崎線、県道宮東日永線）は通称ですが、比較的広く認知されている呼称ですので、本構想ではこのように表記します。また、本構想では江戸時代の東海道を指して「東海道」と表すこととします。

○日永地区の土地利用

日永地区の用途地域の指定状況は大まかにいうと、東部が工業エリア、西部が住居専用エリア、道路沿いは商業エリアであり、これを除く範囲が住居を中心に商店等が混在するエリアとなっています。東部に工業地域（下図の水色）、工業専用地域（同、青色）があり、西部の丘陵地を中心に低層・中高層の住居専用地域（同、緑色）となっています。また、国道1号沿いは笹川通りと泊山通りの間が近隣商業地域（同、ピンク色）であり、その他は準工業地域（同、紫色）となっています。また、国道1号より西の笹川通り沿いなど、主要道路沿いは準住居地域（同、オレンジ色）となっており、これを除く範囲が住居地域（同、黄色）となっています。

当地区には多くの公園があり、大規模な公園・緑地である中央緑地、南部丘陵公園、泊山公園のほかにも、小規模な公園が38か所あり、地区住民はもとより多くの市民の憩いの場となっています。



四日市市公開型GISより

○日永地区の歴史

日永地区西部の丘陵地には弥生時代の遺跡や5、6世紀頃の古墳が発見されており、古代の人びとは丘陵地やその山麓に居住していたことがうかがわれます。その近くまで海が入り込んでいたため、現在、平野となっている地域の大部分は低湿地であったと考えられ、町名にある「泊」はそこが入り江であった名残と思われる。

中世になると、山麓を通っていた街道が現在の地に移り、人びとの居住も新たな街道沿いへと移りました。江戸時代の頃には東海道として整備され、また伊勢神宮への分岐点として「日永の追分」が置かれて街道が発達し、人通りも増え、商業を営む人が出るなど町並みが形成されていきました。あわせて、街道文化として永餅やうちわなどの特産品が作られるようになり、また、つんつく踊りなどの祭りが盛んに行われるようになりました。今に伝わる日永の歴史は、この頃を起源とするものが多いようです。



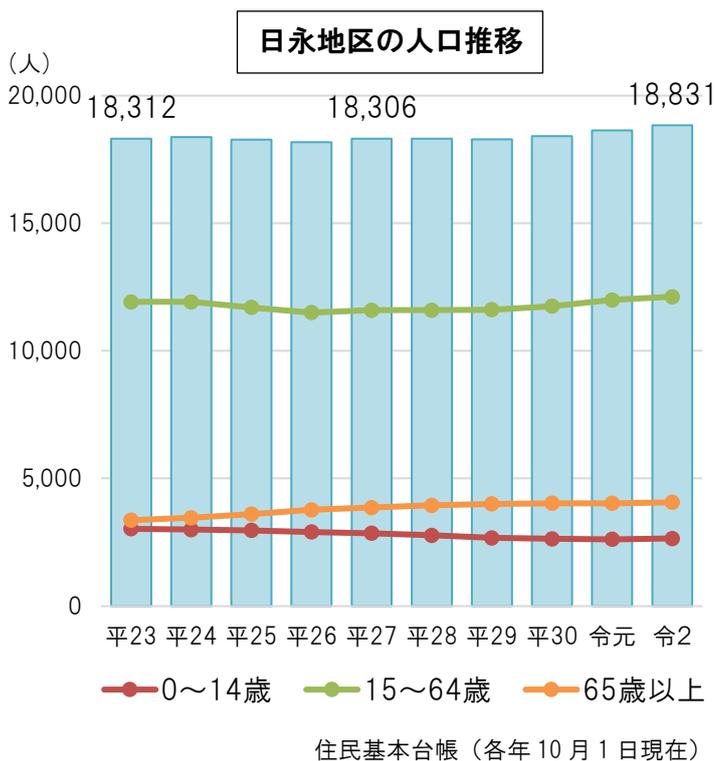
歌川広重「丸清版・隸書東海道五十三次」より（三重県立美術館所蔵）

さらに時代は下り、明治時代になると鉄道の敷設、道路の開通とともに、繊維産業の立地が進みました。現・四日市あすなろう鉄道である当時の三重鉄道も大正期に開通したものです。太平洋戦争の始まる直前には、塩浜に海軍燃料廠が建設され、これに合わせて泊山の官舎と燃料廠を結ぶいわゆる「海軍道路」が整備されました。戦後はこれらの官舎が一般住宅に転用されるなどして活用されました。

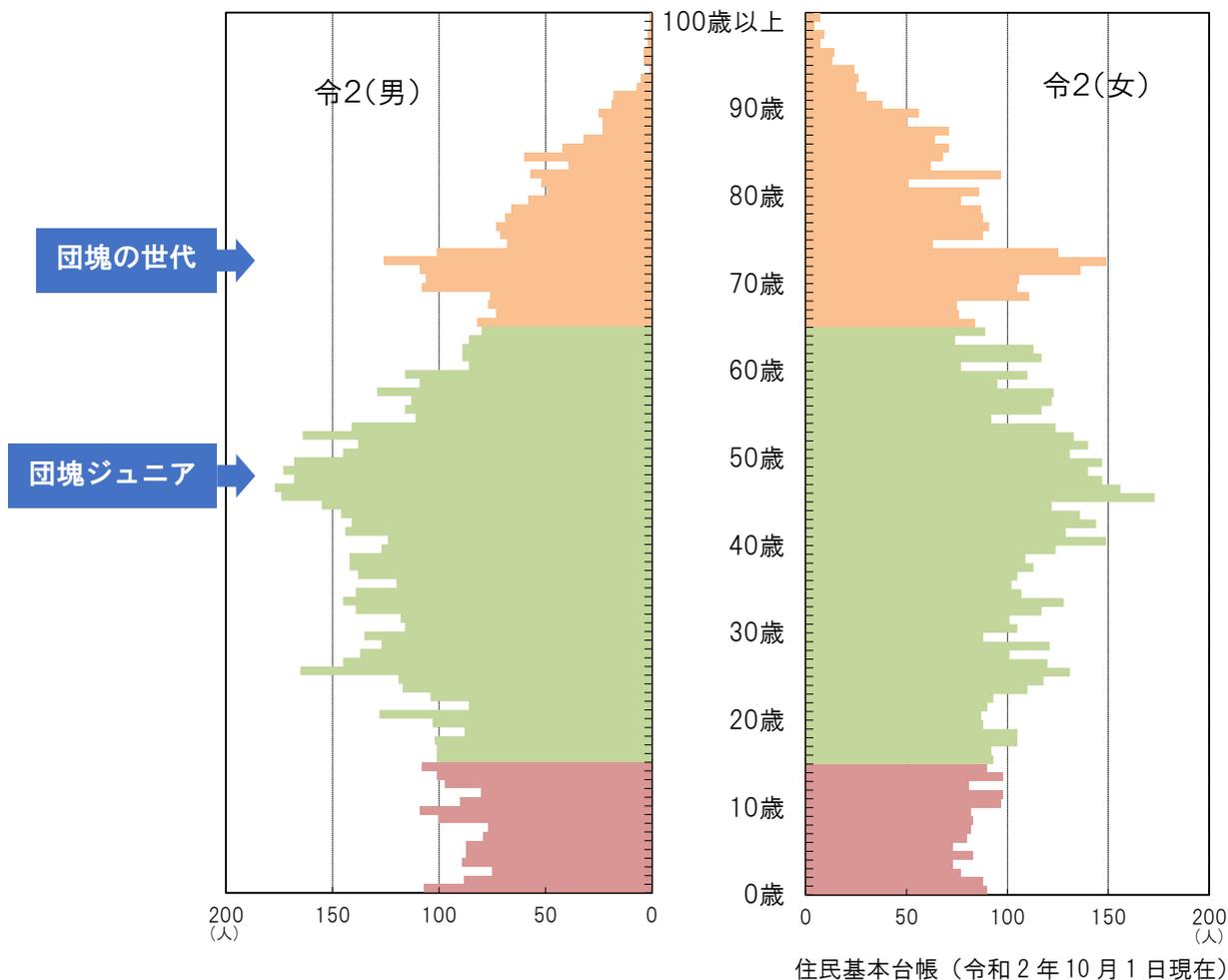
なお、日永、泊、六呂見の合併による日永村の成立は明治24年のことであり、昭和16年に四日市市に編入され、現在に至っています。

○日永地区の人口

少子高齢化が進む中で四日市市の人口も減少傾向にあります。日永地区の人口は横ばいなし微増しています。この主な理由としては、利便性の高い生活を求めて子育て世代が転入してきていると考えられ、実際、子どもの人口は減少傾向が続いていたものが、令和元年以降は再び増加に転じています。一方、65歳以上の高齢者については、総人口が増加しているために高齢化率は横ばいですが、高齢者の実数は増加しており、今後も増え続けることが予想されます。人口の世代構成をみると、いわゆる「団塊の世代」よりも40歳代後半の「団塊ジュニア」が多い状況です。



日永地区の人口ピラミッド



Ⅱ 基本的な考え方

1. 将来像（めざすまちの姿）

日永地区は、地区内を南北に貫く東海道を起点として発展してきました。古くから人びとが行き交った東海道は、経済を潤し、文化を育み、人と人を結びつける役割を担ってきたのです。時を越え、人やものの流れが道路や鉄道に移り、経済の中心が工業に変わっても、生活利便性の高い日永地区には多くの人に移り住み、より一層都市化が進行していきました。

利便性に加え、日永地区に人びとが住むことのもう1つの魅力は、丘陵地などに広がる豊かな緑と公園の存在です。こうした緑や公園が、安らぎのある空間となり、生活に彩りを与えています。その一方で、ひとたび大雨が降ると、低地である日永地区は水害の危険にさらされることとなります。

日永地区は街道沿いに軒を連ねて町並みを形成してきたことから、人びとの共同体意識が強い地域です。しかし、人口が増え、情報通信技術によって暮らしが便利になっていくのに反比例して、昔ながらの絆、助け合いの心は次第に薄れつつあるようです。高齢化が本格化するこれからの地域社会でこそ、日永地区が持っているお互いに見守り、助け合う意識や、住民同士のコミュニケーション・集いの場などの存在が重要になります。

魅力ある日永地区を、次の世代にも引き継いでいけるよう、日永地区ならではの歴史を大切にし、豊かな緑を生かした環境調和型のまちをめざすとともに、人と人とのつながりを再構築して、そのふれあいの中で安心して暮らせる相互信頼のまちをめざします。

こうしたことから、日永地区のまちづくりの将来像を

東海道 人と人を結ぶまち 日永

と定め、この将来像の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めていきます。

2. 基本目標（まちづくりの大きな方向）

日永地区のまちづくりの将来像である『東海道 人と人を結ぶまち 日永』の実現に向けて、テーマごとに4つの基本目標を定めます。

基本目標1 歴史・文化・風景を伝えるまちづくり

東海道を中心として、地区内に残る史跡、祭り、文化などを守り、未来へ引き継ぐとともに、日永地区の魅力を広く発信し、地区を訪れる人にも魅力が伝えられるまちをめざします。

また、落ち着いた住宅地のたたずまいや住民による美化活動など、日永地区の日常風景を大切にしたまちをめざします。

基本目標2 緑の中に憩いとふれあいを生み出すまちづくり

南部丘陵公園、泊山公園、中央緑地などの緑あふれる憩いの空間をさらに充実させるとともに、そうした公園・緑地や地区内の小公園等を整備・活用して、人びとの交流が活発なまちをめざします。

また、住民同士のふれあいの場を充実させるとともに、普段からのふれあいを通じてお互いに見守り、支え合えるまちをめざします。

基本目標3 生活の快適さ、便利さを高めるまちづくり

公共交通機関の利用を促し、国道1号、笹川通りなど主要道路の交通渋滞をできる限り解消するとともに、東海道や生活道路への通過交通の侵入を抑制することで、安全で快適に移動できるまちをめざします。

また、地区内に立地する商業施設、医療施設などへの移動手段を確保し、バリアフリー化するとともに、あすなろう鉄道の活用や空地・空家の有効活用を図ることで、だれもが快適かつ便利に生活できるまちをめざします。

基本目標4 災害に強く、安全な暮らしを守るまちづくり

風水害による河川の氾濫、内水氾濫や大地震とそれによる津波など、発生が予想されるさまざまな災害に対し、防災・減災のためのできる対策を講じるとともに、災害が起きた場合でも、だれもが安全に避難でき、関係機関の連携と地域の助け合いの中ですべての人の命を守ることができるまちをめざします。

また、子どもから高齢者まで、犯罪や交通事故の被害に遭わない安全なまちをめざします。

3. 取組の体系

将来像 めざす まちの姿	基本目標 (まちづくりの大きな方向)	取組項目 (取り組みの方向)
東海道 人と人を結ぶまち 日永	1 歴史・文化・風景を伝えるまちづくり	(1) 歴史・文化の保全・継承 (2) 歴史資源の活用 (3) 東海道の歩行環境整備 (4) 美しい町並みの創出
	2 緑の中に憩いとふれあいを生み出すまちづくり	(1) 公園・緑地の整備・充実 (2) 緑の有効活用 (3) 身近なふれあいの場づくり (4) みんなで支え合うまちづくり
	3 生活の快適さ、便利さを高めるまちづくり	(1) 交通渋滞の解消 (2) 生活利便性の確保 (3) あすなろう鉄道の活用 (4) 空家・空地の有効利用
	4 災害に強く、安全な暮らしを守るまちづくり	(1) 治水対策の促進 (2) 事前復興構想の促進 (3) 安全な避難路の確保 (4) 災害時の避難・対策の確保 (5) 自助・共助体制の構築 (6) 防犯・交通安全対策の推進

Ⅲ まちづくりの取組方向

基本目標 1

「歴史・文化・風景を伝えるまちづくり」

取組項目(1) 歴史・文化の保全・継承

【現状と課題】

□日永地区には南北に東海道が通り、その沿道を中心に発展してきた歴史を持っています。「つんつく踊り」、「獅子舞」などの伝統行事や、「日永うちわ」といった伝統工芸、生活文化などにも東海道にまつわるものが数々残されています。しかし、高齢化・少子化など社会状況の大きな変化により、伝統行事や伝統文化の後継者の減少が続いています。後世に歴史・文化を引き継いでいくためには、日永地区としてその方法を検討する必要があります。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
住民、地域	「つんつく踊り」、「獅子舞」などの伝統的な行事を後世へと伝承するため、それぞれの保存会等の活動の活発化に向けた連携を図るとともに、日永地区全体としての活動支援のあり方についても検討します。	短期
住民、地域	伝統行事等の後継者の確保・育成に向けて、動画投稿サイトなどでの発信や写真コンクールの実施などによる若者や子どもへのPRを行います。あわせて、撮影した映像を電子記録として伝承活動に活用します。	短期



つんつく踊り



獅子舞

取組項目(2) 歴史資源の活用

【現状と課題】

- 東海道沿いには日永追分の鳥居や一里塚、一本松といった史跡とともに、歴史的な寺社、建築物等が残っています。伝統行事とともに、こうした歴史的な資源を保全し、観光資源として活用していくことが求められます。
- 日永地区に残る歴史的な事物を紹介する施設として、「日永地区歴史資料館」が開設されていましたが、令和3年をもって諸事情により閉館しました。資料館については再整備を望む声が多くあることから、候補地の検討や資料の収集方法などの検討が必要です。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域、行政	日永の追分、一里塚、一本松をはじめ、東海道沿いの伝統的な建物などの歴史的景観を保全するとともに、案内板やマップなどによって、観光客に向けた観光案内を充実させます。	短期
地域、企業・団体	日永地区の歴史・文化を紹介する場として、歴史資料館の再整備をめざすとともに、資料の集積・整理・公開の方法などについての検討を行います。	中期～長期



日永の追分（追分三丁目）



東海道の一本松（日永五丁目）



日永一里塚跡（日永五丁目）

取組項目(3) 東海道の歩行環境整備

【現状と課題】

- 東海道については往時の佇まいを感じさせる一方で、道幅はせまく車同士のすれ違いが困難な箇所があります。朝夕には国道1号の渋滞を避ける車の抜け道となるため混雑がひどく、歩行者が危険にさらされることもあります。
- 観光で訪れ、東海道を歩く人も増えていることから、車に通行を妨げられずゆったりと歩ける道路環境をつくとともに、観光客向けの案内所やカフェなどの休息の場を提供することが求められます。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
行政	東海道を「歩く道」として環境整備するため、歩行帯の確保による車歩道分離、地道風のカラー舗装、電柱の地中化などを働きかけます。	中期～長期
地域、行政	観光客や地域住民など東海道を歩く人の安全を確保するため、曜日や時間帯による交通規制などについて警察等の関係機関に働きかけます。	短期～中期
住民、地域、企業・団体	観光客向けの案内所、カフェなどが整備されるよう、空き家や空き地の活用を誘導します。	短期～中期



東海道（日永四丁目）



東海道での渋滞のようす（泊町）

取組項目(4) 美しい町並みの創出

【現状と課題】

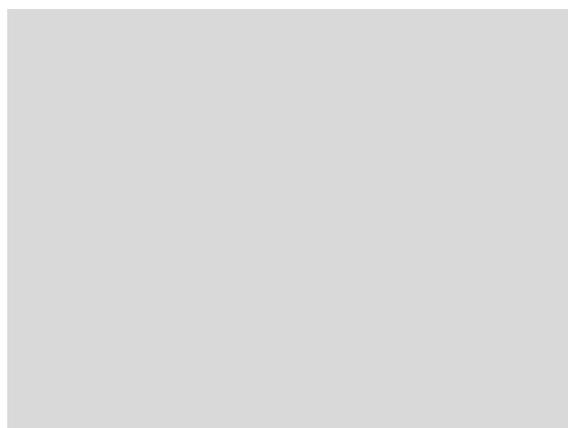
- 地区内には桜や梅が美しい場所があり、また、住宅地からも丘陵地の緑が望めます。
こうした美しい景観を保全・美化するとともに、それを妨げるものをできるだけ少なくして、整った町並みを創出していくことが求められます。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
住民、地域、 企業・団体	分かりやすいまちとなるよう、地区内に案内板の増設・整備を進めます。また、東海道をはじめ、通りへの愛称を設定するなどして地区のイメージアップを図ります。	短期
住民、地域、 企業・団体	東海道沿いの空き地や駅前、小公園などにおける花づくりや学校、企業などのごみ拾いなどの活動を支援・促進し、地区内の景観美化につなげます。	短期
地域、企業・団体、 行政	景観上の妨げとなる屋外広告物等のルールのあり方について検討を行います。	中期



泊山公園からの眺め（泊村）



基本目標 2

「緑の中に憩いとふれあいを生み出すまちづくり」

取組項目(1) 公園・緑地の整備・充実

【現状と課題】

- 日永地区の西側に広がる南部丘陵公園は、芝生広場や遊具のある大型公園として整備されており、市内外から多くの人が集まります。その一角には日永梅林があり、春には「梅まつり」が開催されます。今後はその魅力を生かしつつ、だれもが集える場として機能を充実させていくことが求められます。
- 泊山公園は住宅地に隣接した緑あふれる公園です。反面、かつて農業用ため池として利用されていた大正池周辺は木々が生い茂るなど、安全面や景観面からも課題があつて公園に足を運ぶ人が少なくなっており、対策が求められます。
- 中央緑地は市民のスポーツの拠点となっており、とこわか国体・とこわか大会に合わせてスポーツ施設とともにレストラン等の整備が進められました。スポーツを行う人はもとより、より多くの人を訪れると考えられることから、中央緑地を日永地区のまちづくりにも位置づけ、市民の交流の場として活用していくことが求められます。
- 日永地区のいずれの公園・緑地も駅から遠く、車やバスの利用によらなければならない状況にあります。歩いたりジョギングしたりしながら公園・緑地へ向かう人に対しては、国道1号などの幹線道路を越えなければならない、楽しく安全なルートを示すことが必要です。さらに利用を促すためには、アクセスを向上させる必要もあります。



南部丘陵公園（大字日永）



泊山公園・大正池（泊村）

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域、行政	南部丘陵公園が市内外から人が集まる場となるよう、日永梅林などの環境整備を進めるとともに、交流・学習・防災研修施設やキャンプ場、アスレチックなどの整備、及びユニバーサルデザイン化を働きかけます。あわせて、地域の緊急避難場所として、防災機能の充実を図ります。	短期～長期
地域、行政	泊山公園が市民の憩いの場となるよう、大正池周辺の木々の伐採などの環境整備と遊歩道やあずまの整備を働きかけます。	中期～長期
地域、企業・団体、行政	中央緑地については、スポーツだけでなく市民の交流の場となるようPRして利用を促すとともに、日永地区のまちづくりとの連携・活用のあり方について検討します。	短期
地域、企業・団体、行政	各公園・緑地における駐車場を確保しつつ、ループバスの設定によるアクセスの向上を図ります。	中期
地域、行政	各公園・緑地の間及び駅との間の連絡が向上するよう、「南部アルプス縦走路」や河川沿いの遊歩道などを生かした歩行ルートの設定を行います。また、楽しみながら安全に歩けるよう、歩道・歩道橋・連絡橋等の整備を働きかけます。	短期～長期



中央緑地（日永東一丁目）



中央緑地（日永東一丁目）

取組項目(2) 緑の有効活用

【現状と課題】

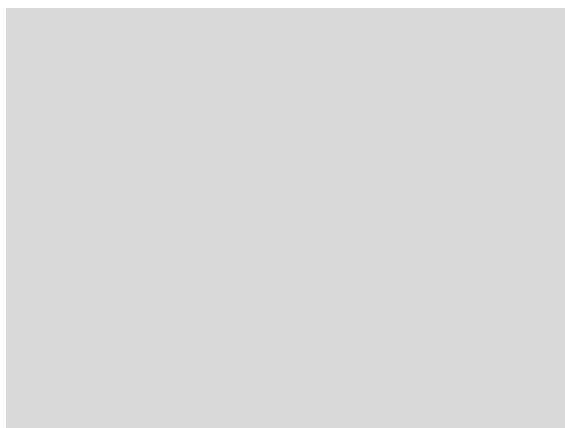
□日永地区には南部丘陵公園、泊山公園、中央緑地といった大型の公園・緑地があるほか、地区内には40か所近くの公園が存在します。大きな公園・緑地も、身近な小公園も、それぞれ有効活用されるよう、緑に親しめる交流の場として人が集まる工夫をしていく必要があります。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
住民、地域、企業・団体	子どもたちが緑に親しみ、地域への愛着を育めるよう、南部丘陵公園などを生かした里山体験、自然学習などのイベントを実施します。	短期～中期
住民、地域、企業・団体	日永梅林の梅を活用し、「梅まつり」をはじめとするイベントはもとより、採取した梅を活かした加工品づくりなどの新たな取り組みを行います。	短期～中期
住民、地域、企業・団体	泊山公園については、地域住民の参加による公園整備方策を検討します。また、地域の小公園の清掃活動を促すとともに、伐採した木や落ち葉を生かしたイベントと連動して緑への意識を高めます。	短期～中期



梅林まつり



取組項目(3) 身近なふれあいの場づくり

【現状と課題】

□日永地区は古くからの歴史がある一方、近年、住宅地が整備され、転入者が多い地区でもあります。このため、子ども・若者から高齢者まで多世代にわたる住民が住んでいます。住民の交流の場としては、市社会福祉協議会の協力による「ふれあいきいきサロン（サロン）」や「いきいき100歳体操」などが概ね町単位で開催されていますが、高齢者が中心となっており、町によっては無いところもあるのが現状です。今後、住民同士が交流し、ふれあいを生み出すためにも、地区内の小公園や広場、サロンや健康づくりの場などを活用・充実させていくことが求められます。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域、企業・団体、行政	子どもたちの安全な遊び場、高齢者等の交流や健康づくりの場となるよう、地域の小公園や広場の環境を整備するとともに、空き地の活用などを図ります。	短期～中期
住民、地域、企業・団体	住民同士の交流の場となるよう、地域の小公園や広場を活用した花づくりや樹木の剪定、防災訓練、フリーマーケットなどのイベントを企画します。	短期
住民、地域、企業・団体	地区内各地において高齢者等を中心としたサロンや健康づくりの場の充実を図り、交流の場としてより一層の活用を図ります。また、サロンや健康づくりの場を開く場所がない地域やスタッフが不足する地域に対しては、地区社協と協働して相談・支援を行います。	短期



猿法師公園（泊町）



サロンのようす

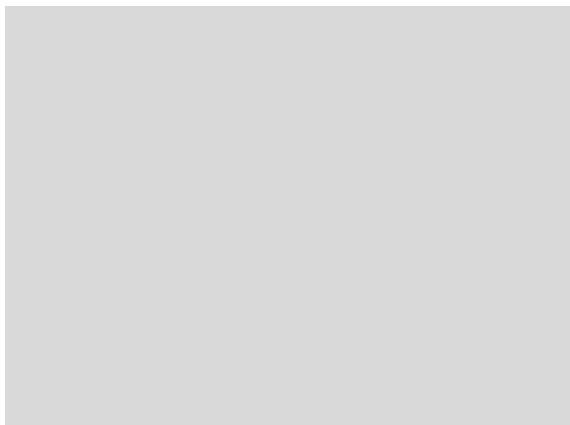
取組項目(4) みんなで支え合うまちづくり

【現状と課題】

- 近年、価値観が多様化し、社会全体が大きく変わりつつあり、日永地区では高齢者が増加する一方で、子育て世代の転入と住民の国際化が進んでいます。このような社会的転機の中、現在そして将来にわたって地域社会を元気あるものにしていくため、すべての人びとがお互いを尊重し、思いやり支え合うまちづくりへの意識的な取り組みが求められています。
- 日永地区では平成6年から「高齢者見守り制度」をつくり、近隣同士で声を掛け合い、ひとり暮らし高齢者等を見守ってきました。また、通学時間帯には、子どもたちを見守る活動が行われています。地域住民が安心して暮らせるためには、こうした見守りとともに、支えが必要な人への手助けを仕組みとしていくとともに、普段からのふれあいの機会をつくり出して、福祉の意識を高めていくことが求められます。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
住民、地域	すべての人の人権を守り、地域住民のだれもが取り残されることのない、多様性を尊重したコミュニティづくりをめざします。	短期～中期
住民、地域、企業・団体	だれもが安心して暮らせる地域となるよう、「高齢者見守り制度」、「避難行動要支援者の取り組み」などの支え合いの活動をより一層充実させ、地域福祉、地域防犯、地域防災などの地域連帯の意識づくりにつなげます。	短期
住民、地域、企業・団体	買物、ごみ出し、剪定等、高齢者等が日常生活の手助けを受けられることができる制度をつくります。	短期
住民、地域	子どもたちが安全かつ安心して通学したり、遊んだりできるように、地域住民による見守り・パトロール活動の充実に向けた理解と協力を呼びかけます。	短期



子ども見守り活動のようす

基本目標 3

「生活の快適さ、便利さを高めるまちづくり」

取組項目(1) 交通渋滞の解消

【現状と課題】

- 日永地区には南北に貫く国道1号、東海道、東西に走る笹川通りがあり交通は非常に便利です。しかし、地区内全体において慢性的に渋滞が発生しており、渋滞を避ける車が、抜け道となる東海道や他の生活道路にまで進入するなど、地区住民の日常生活にも影響を及ぼしており、子どもをはじめとする歩行者にとっては危険です。
- 渋滞を緩和するためには、もちろん道路の新設や拡幅等、道路行政に依存するところがありますが、現状ではその全ての実現は非常に困難と思われます。そのため、まず日永地区としてできる渋滞緩和策を進めていくことが必要です。
- 地区内にはあすなろう鉄道が通るほか、JRの南四日市駅があります。しかし、JR南四日市駅は利用者が少なく、駅周辺の環境も整っているとは言いがたい状況にあります。今後、中心市街地では「バスタ四日市」の整備が進められ、道路・交通環境は大きく変わる可能性があります。こうしたことを見通しつつ、道路渋滞を抑制するためにも、鉄道の利便性を向上させることが求められます。



生活道路の渋滞（前田町）



国道1号の渋滞（日永四丁目）

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
住民、地域、企業・団体、行政	あすなろう鉄道の運行本数の増便、車寄せなど駅の環境整備、国道ではバス優先レーンの設置など、鉄道やバスの利便性を向上させ、車の利用率を減らすことにより、慢性的な交通渋滞の減少につなげます。	中期
企業・団体、行政	J R南四日市駅駅舎の改修、駐車場、駐輪場の設置等周辺整備を進めるとともに、ループバスの活用等によりアクセスを向上し、J R利用者を増加させ、交通渋滞の減少につなげます。	中期
地域、行政	東海道や生活道路における渋滞の解消、通行の安全を図るため、時間帯による一方通行の実施、歩道の設置、電柱の地中化、側溝の暗渠化などを進めます。	中期



J R南四日市駅前（日永東三丁目）



J R南四日市駅構内（日永東三丁目）

取組項目(2) 生活利便性の確保

【現状と課題】

- 日永地区には国道1号、あすなろう鉄道、JRが通り、大型スーパーマーケット、家庭用電化製品販売店等の多くの商業施設、県立総合医療センターをはじめとする各科の医療施設、高齢者等の福祉施設、中央緑地・南部丘陵公園等があり生活には非常に便利です。
- その反面、移動手段を持たない高齢者、障がい者や病気の患者、外国人、旅行者等にとっては、その施設を利用するにあたって不便な点もあることから、誰もが生活しやすいまちにするためには、さまざまな方策に取り組む必要があります。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域、企業・団体、行政	低料金で利用できるループバスを運行し、県立総合医療センター、JR南四日市駅、大型スーパー、中央緑地、南部丘陵公園等の拠点となる施設を巡回することにより、医療、通勤、買物、遊び等の利便性を向上させます。	中期
地域、行政	公共施設はもとより、人が集まるその他の施設においても、全ての人々が施設を利用でき、またスムーズに移動できるよう、バリアフリー化をします。	中期
住民、地域	外国語、点字による標識を含む道案内標識を増やし、高齢者、外国人、旅行者等、全ての人々が安心して目的地に行けるようにします。	短期
地域、行政	河川堤防道路、公園内外周道路等で自転車専用レーン、歩行者専用レーンを設置し、サイクリング、ウォーキングで安全に移動でき、また楽しむことができるよう進めます。	中期



路線バス（日永四丁目）



河川敷の遊歩道（日永西一丁目）

取組項目(3) あすなろう鉄道の活用

【現状と課題】

□日永地区内にはあすなろう鉄道の駅が4つあり、あすなろう鉄道となった平成27年以降、4駅合計で1日あたり約2,000人の乗客が利用しています。あすなろう鉄道は、かつての軽便鉄道を起源とする全国的にも珍しいナローゲージの路線であり、その小さな車両は、日永地区の風景にもなじんでいます。これからも、地域住民の交通手段としての役割を担うとともに、交通渋滞対策としての重要性にも着目し、まちづくりの中で活用していくことが求められます。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
企業・団体、行政	あすなろう鉄道を利用しやすくするため、施設のバリアフリー化とともに、駐輪場の環境整備や車寄せスペースの確保など、駅と駅周辺の整備を働きかけます。	短期～中期
企業・団体、行政	高齢者の免許返納対策や渋滞対策への協力を呼びかけるため、地域住民向けの「割引定期券」を設定するなど、地域の人が繰り返し乗れるしかけの検討を促します。	短期～中期
地域、企業・団体、行政	あすなろう鉄道の希少性をアピールするためのPR活動を充実させるとともに、鉄道ファンなどを呼び込むイベントを開催します。	短期



南日永駅（日永四丁目）



日永駅の駐輪場（日永一丁目）

取組項目(4) 空家・空地の有効利用

【現状と課題】

- 日永地区では高齢化が進み、空家・空地が増加しています。空家については災害時の倒壊・火災の恐れがあり、犯罪発生が増加、樹木の巨木化や雑草の繁殖などによる景観の悪化等も懸念されています。
- 空家・空地が利用可能であり、地区住民がそれらを活用できれば、生活の利便性を向上させたり、住民間のふれあい、高齢化対策にもつなげたりできることから、さまざまな活用策を進めることが求められます。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
住民、企業・団体、行政	空家を活用し、地区の集会やイベントの実施、趣味のグループ活動等による交流の場所、住民の憩いの場所をつくります。また、空家を改装し、飲食店、地産品販売店、ギャラリーなど、営業する人を誘致することによって、地域の活性化を進めます。	短期
住民、企業・団体、行政	空地を活用し、共同農園として希望者を募り作物を栽培してもらうことなどによって、交流の場と生きがいづくりにつなげます。また、空地を駐車場にして適正に管理することにより、路上駐車防止による渋滞の緩和とともに、駐車場のない商店の買物客の利用を促します。	短期

基本目標4

「災害に強く、安全な暮らしを守るまちづくり」

取組項目(1) 治水対策の促進

【現状と課題】

- 1974年に発生した天白川、鹿化川の氾濫は、日永地区に甚大な被害をもたらしました。その後、部分的な治水対策は行われたものの、抜本的な対策は実施されていないため、豪雨時の水害の危険度は高いままとなっています。また、豪雨の度に内水氾濫を繰り返している地域が広範囲にあります。
- かつては大雨時に調整池の役目を果たしていた山林や田畑の宅地化が急速に進み、以前に比べて保水力が大幅に減少しています。このため、大雨時には雨水が一気に河川や用水路に集中するようになりました。このような町の姿の変化と気候変動によるリスクの増大を踏まえた治水計画が必要になっています。



天白川（日永西一丁目）



鹿化川（日永一丁目）

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
行政	豪雨時の河川への負荷を減らし、堤防からの越水や下流域の内水氾濫を防ぐため、鉄砲川、猿法師川、鹿化川、天白川への流量調整機能が確保されるよう、引き続き国・県・市に働きかけます。	中期
行政	河川の氾濫を防ぐため、河川断面を維持・確保できるよう川床のしゅんせつの定期的な実施を国・県に働きかけます。	短期
企業・団体、行政	住宅地内の内水氾濫を防ぐため、住宅団地、商業施設、医療施設等における調整池の確保・機能維持を促すとともに、用水路の拡幅を関係機関に働きかけます。	中期
行政	早急に用水路の各所に水位計を設置するなど、内水氾濫の監視体制を確立し、「四日市市Sアラート」と連動した内水氾濫危険情報の迅速な発信を働きかけます。	短期



猿法師川（前田町）



排水路のようす（日永二丁目）

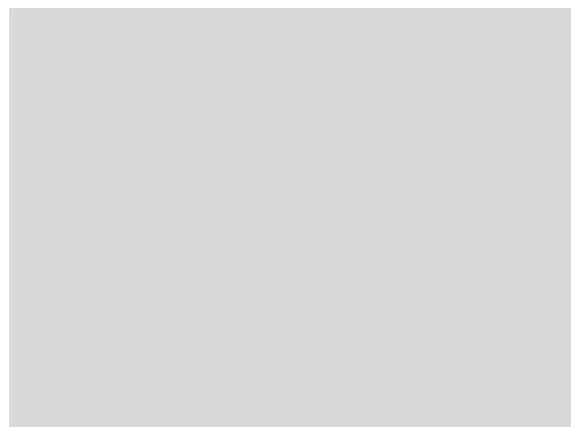
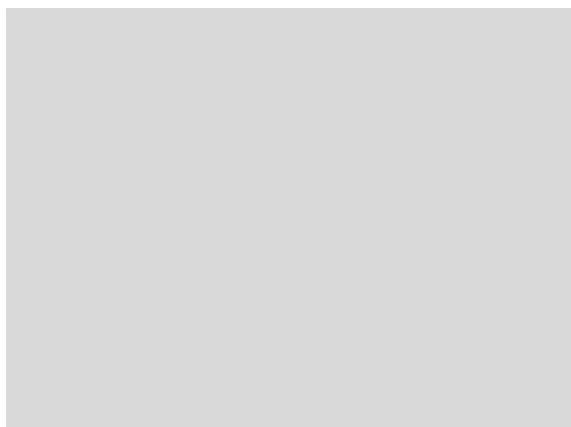
取組項目(2) 事前復興構想の促進

【現状と課題】

□南海トラフ地震は家屋の倒壊、津波、火災などを引き起こし、日永地区だけでなく市全体で甚大な被害が発生すると考えられています。その際、地域を災害前の元の姿に戻すという原形復旧ではなく、気候変動対策と防災・減災対策を含めた復興とまちづくりが必要となっています。被災後に速やかに対応できるよう、災害発生前から未来を見据え、復興後の防災力の高いまちの姿を考えた事前復興の取り組みが求められています。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
行政	防災力の高いまちづくりを目指して、市全体の事前復興の取り組みを促進し、高潮・津波対策の重視や国道1号の拡幅など、日永地区のまちづくりにかかわることに、市が策定する事前復興構想への働きかけを行います。	中期
地域、行政	平時はふれあいの場として使えるオープンスペースを地区内にいくつか確保します。	中期



取組項目(3) 安全な避難路の確保

【現状と課題】

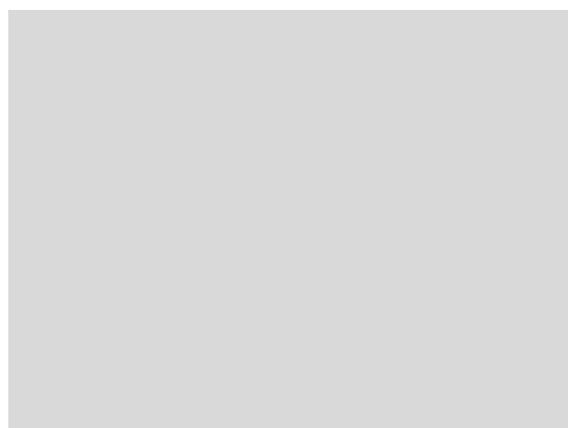
- 日永地区では居住区の道路のほとんどが狭く、災害時には建物などの倒壊により多くの人びとが避難に困るだけでなく、命が危なくなる場合もあると予想されます。
- 安全な歩道の整備が非常に遅れており、過剰な交通量、段差、道幅不足など、足の不自由な人や車椅子の人にとって移動し難い所が多くあります。
- 災害時用の案内表示板が極めて少なく、いざという時の安全な避難ルートと安全な緊急避難場所に関する情報発信が不足しています。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域、行政	徒歩及び車椅子でも移動できるバリアフリーの避難経路を確保します。避難ルートの要所にソーラー夜間照明を設置し、停電した夜間でも避難者を安全な避難ルートに誘導できるようにします。	短期
地域、行政	災害時用のソーラー照明付きの案内表示板を各自治会の要所に設置し、内容を充実します。また、日本語だけでなく、外国語も併記します。	短期
住民、企業・団体、行政	倒壊の恐れのある危険な建物、ブロック塀、石垣等について、危険性の除去を所有者に働きかけます。また、空地を整備・活用し、延焼火災を予防することによって防災力を高めます。	短期



津波避難ビルの案内表示（泊小柳町）



取組項目(4) 災害時の避難・対策の確保

【現状と課題】

- 南海トラフ地震発生後の想定される避難者数に対して、指定避難所の収容力が圧倒的に不足しています。指定避難所以外に避難所として使用できる公共施設もほとんどありません。避難所から溢れ、また在宅避難もできず、車中泊や屋外でしのぐ避難者が続出すると考えられます。「関連死」という犠牲者を増やすことになりかねません。
- 災害対策拠点として想定されているのは日永地区市民センターですが、海拔が5m程であるため津波や高潮が到達する危険性があります。その場合は地区市民センターのバックアップ機能として災害対策拠点を泊山小学校に設けますが、現状では拠点機能としては十分ではないため、拠点となる施設の整備が求められます。
- 緊急時の避難場所として利用できる公園がいくつかありますが、それらの公園には災害時への備えがないため、防災資機材等の充実が求められます。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域、行政	災害時に災害対策拠点として使えるよう、感染症対策にも対応できる防災機能を備えた施設の設置を働きかけます。この施設は平時には地域の交流会館とし、スポーツや文化活動など、地域住民の様々な活動の場として活用します。	中期
行政	指定避難所となる学校施設など公共施設等の防災・避難所機能の強化を促進します。	短期
地域、行政	南部丘陵公園内の広場を臨時の避難所として使えるように、防災倉庫を設置してテントを含めた防災資機材・毛布・食料などを用意します。	短期
地域、行政	天白河畔公園と泊山公園に防災倉庫を設置して簡易トイレ・毛布・食料などを用意します。	短期
地域、行政	地区内の各公園に防災倉庫を設置して毛布などを用意します。	短期



南部丘陵公園（大字日永）



天白河畔公園（日永二丁目）

取組項目(5) 自助・共助体制の構築

【現状と課題】

- 南海トラフ地震が切迫し、風水害のリスクも高まっている今、各家庭での備えとともに、いざという時には近隣住民同士の支え合いが極めて重要となっています。しかし、その一方で地域の日常的な交流や祭りなどが減少してコミュニティの希薄化が進行しています。そこで、防災への継続的な取組を通して、地域防災力の向上と地域コミュニティの再興を統合的に進めていくことが望まれます。
- 高齢化が進行し、いざという時に自立して行動することが困難な人びとが増えています。このため、地域住民が一体となって、福祉・保健関係者、防災組織とともに避難行動要支援者の命を守る連携体制を整備することが求められています。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
住民、地域	いざという時に声を掛け合える健全なコミュニティづくりを日常的に推進していきます。	短期
住民、地域	防災訓練、防災学習、研修などを継続し、地域住民の防災意識と防災力の向上の取組を一層推進していきます。	短期
住民、企業・団体	耐震診断の促進など、住宅建物等の耐震対策の強化に努めます。	短期
住民、地域、企業・団体	地域住民総ぐるみで、福祉・保健関係者、防災組織との連携による避難行動要支援者への支援体制の構築を進めます。	短期



防災訓練のようす



防災訓練のようす

取組項目(6) 防犯・交通安全対策の推進

【現状と課題】

- ひとり暮らしの人や高齢者の増加は、特殊詐欺等の犯罪の発生に結びつく恐れがあります。このため、近隣同士での普段からの交流を活発にすることで、犯罪を未然に防ぐことが大切です。
- 日永地区内には幹線道路が通っていますが、朝夕の渋滞時には幹線道路から住宅街への流入が多く、地域住民の安全性を脅かしています。通過交通の住宅地への侵入を防ぐとともに、通学路等における安全対策が求められます。

【取組内容】

だれが	なにを、どのように	いつごろ
住民、地域、 企業・団体	通学路や小公園などの子どもたちの遊び場の見守り活動とともに、防犯灯、防犯カメラなどの設置による犯罪抑止対策を進めます。	短期
地域、企業・団体、 行政	朝夕の通学時の見守り活動とともに、通学路をはじめとする道路への歩道やガードレールの設置による歩道・車道の分離を促進します。また、ラッシュ時の住宅地への通過交通の侵入を抑制し、住宅地内での交通事故を防ぎます。	短期



防犯カメラ（日永西一丁目）



横断歩道のようす（泊町）

まちづくり構想図

- 凡例**
-  東海道の環境整備、歴史的景観の保全、交通規制の検討、歩行者の安全確保
 -  公園の環境整備・活用
 -  公園の環境整備・活用、日永梅林の活用、避難所機能の充実
 -  あすなろう鉄道の増便、繰り返し乗れるしかけ、イベントの開催
 -  駅と駅周辺の整備
 -  バス優先レーンの設置
 -  流量調節機能の確保
 -  流量調節機能の確保、河床のしゅんせつ
 -  指定避難所の機能強化
 -  防災倉庫の設置
 -  既設の防災倉庫
 -  防災研修施設の整備



IV まちづくり構想の実現に向けて

1. 推進体制

本構想は、今後概ね10年間にめざすべき日永地区のまちづくりの方向性を示したものです。本構想の内容を具体化していくうえでは、策定の中心となった「日永地区まちづくり構想策定委員会」をはじめ、自治会等の地域組織はもとより地区で活動しているさまざまな団体や企業、そしてより多くの地区住民がまちづくりに意欲的に参画し、行政との協力関係を継続しながら、役割を分担して協働していくことが不可欠です。

今後も継続的に話し合いの場を設け、課題を共有しながら、意見交換等を行っていくことが大切であることから、策定委員会を母体とした「日永地区まちづくり構想推進委員会（仮称）」を設置して組織体制を再編強化することにより、地区のさまざまな関係者の意見や活動を調整しつつ、取り組みを推進します。

さらに、本構想に掲げた取組内容の中から試行的・先行的に取り組む事業を選択し、関係する団体・企業などとの連携も想定した「部会」や「事業プロジェクトチーム」を設置するなど、柔軟かつ機動的に取り組める体制づくりをめざします。

2. 意識の共有と協働によるまちづくり

本構想の推進にあたっては、地区住民等が問題意識を共有し、必要に応じて合意形成がなされなければ、取組内容の多くは実現することができません。つまり、地区住民や関係団体・企業等それぞれが「主人公」としての意識を持ち、自らの役割を認識して、協働のもとで取り組むことが重要です。

このため、「まちづくり構想推進委員会（仮称）」が主体となって、この構想の普及・啓発及び進捗状況についての情報発信に努めるとともに、地区住民や関係機関の意見交換の場となる勉強会等を開催し、まちづくりに対する意識を高めつつ、次代のまちづくりを担う人材の育成を図ります。あわせて、それらの意見交換の中から具体的な活動や事業へとつなげるなど、住民、地域組織、団体・企業、行政による「協働の輪」を広げながら、まちづくりを展開していきます。